

11月



霧島市立持松小学校

令和7年11月21日（金）

かがやけ！持松っ子

努力貯金で3つの花をさかせよう！

《やさしさの花 かしこさの花 たくましさの花》



あなたは何かできますか？



校長 後藤 豊仁

これまで鹿児島県内の8校の小学校に赴任してきました。旧始良町から始まり、旧東町（今の長島町）、鹿児島市、十島村、指宿市、志布志市、そして現在です。

それぞれに多くの子どもたちとの出会いがあり、たくさんの思い出もできました。どこに行っても、赴任先の市町村で暮らしてきました。妻も同じ職業です。生活を共にできたのは、基本的に鹿児島市での勤務までで、十島村の宝島に赴任してからは単身での生活が続きました。

学生の頃は、みそ汁は出汁を入れてつくるものということを知らず、できたと思って食したときの味をいまだに忘れることができません。私には、料理は母親や妻がつくるものであり、店で食べるものであるという思い込みがあり、自分でつくるといった概念がありませんでした。



そんな生活能力が全くない私が宝島という小さな島に単身赴任したわけですので、問題がないわけがありません。店が1件ありましたが、島民全体で運営している小さな店で、それも朝夕合わせて3

時間しか営業していませんでした。もちろん食事をする場所もありません。学校があるときは給食がありましたが、それ以外はすべて自分でつくらなければなりません。追い込まれた私は、冷凍食品をレンジでチンするところからのスタートでした。難しいと思っていた食事づくりは、やっていく内に思ったほど難しい事ではないことが分かりました。釣った魚も自分で捌きました。それまでは全く縁がなかった草刈りも覚えました。自分でやらないと誰も刈ってはくれませんし、トカラハブという猛毒を持った蛇がいたので、家の周りの草を刈らないと命に関わるからです。

今までやってこなかったことをやらざるを得ない環境に置かれたことで、期せずしてですが、やることになり、どうやらうまくいくのか試行錯誤することになり、いろいろなことがそこそこできるようになりました。うまくできるようになると、周りの力になれることが増えることに気がしました。自分が周りの人の役に立っていると思えるようになり、よい循環が生まれました。人に頼ってばかりいた以前の私なら、このようなよい流れはできていなかったと思います。

本校に赴任してからは塗装の仕方と生け垣の刈り込み方を覚えました。塗装については、運動会前に朝礼台が錆び付いていたので、自分でもできるのではと思い、始めたのがきっかけでした。今年の運動会前には体育館のひさしの塗装が終わり、約3年ですべての固定施設の塗装が終わりました。気付いてくださった地域の方が「きれいになったなあ。」と声をかけてくださると、嬉しさでいっぱいになります。

生け垣の枝が伸び放題になっている実家では、できるようになった刈り込み方を活かして作業すると、両親がとても喜んでくれました。

一方で若い頃からこのような考えだったらもっと多くのことを学び、それを周りに還元できていたのになあと今になって残念な気持ちがあります。

宝島で「あなたは草刈り機が使えますか。」と地元の方に聞かれました。「いいえ。使ったことがありません。」と答えると、とても残念そうな顔をされました。「では、あなたは何かできますか。」と聞かれた時、何一つ島の役に立てるようなことができない自分に気付かされました。しかし、そこでの気づきがあったから、今の自分につながっています。

毎日の生活の中で、二の足を踏んでいることはありませんか。もし何か1つでも思い当たることがありましたら、思い切ってやってみてはどうでしょうか。人生を豊かにできるかできないかは、心がけ一つで変わります。

第2回ふれあい緑化活動が行われました

11月12日（水）、ふれあい緑化活動を行いました。当日は8名の保護者と地域の方々が参加し、児童と一緒に花壇やプランターの整備をしました。土を耕し、石灰や肥料を混ぜて整える作業では、保護者や地域の皆様がていねいにご指導くださり、子どもたちも意欲的に取り組みました。「こっちは土はふかふかだね。」「上手にできているね。」と温かい声を掛けていただき、笑顔があふれました。地域と保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。これからみんなで苗を植え、生長を見守りながら育てていきます。



12月行事予定

- 3日（水）AEAとの英会話活動
- 4日（木）人権週間（～10日）
- 4日（木）第2回学校運営協議会、委員会活動
- 5日（金）鹿児島国際大学との交流会
- 9日（火）人権集会
- 10日（水）霧島高校出前授業
AEA・ALTとの英会話活動
- 11日（木）移動図書、クラブ活動
- 12日（金）保護者の読み聞かせ（長友さん）
命の教育の日
- 13日（土）土曜授業日
- 17日（水）食に関する指導
- 19日（金）昔のことの伝承交流（門松・しめ縄づくり）、スクールカウンセラーとの教育相談
- 23日（火）メディアコントロールデー、セレクト給食
- 24日（水）特別校時、終業式、大掃除
- 25日（木）冬休み（～1月7日）
- 26日（金）仕事納め、迎春準備
- 27日（土）年末閉庁（～31日）

かがやけ！持松っ子 特別版

11月

努力貯金で3つの花を咲かせそう！

《やさしさの花 かしこさの花 たくましさの花》

霧島市立持松小学校 令和7年11月21日（金）

学習発表会～学びと成長を伝えるひととき～

11月7日（金）、県民週間の最終日に、持松小学校では学習発表会を開催しました。午前中は「市の音楽のつどい」での発表もあり、子どもたちは朝から慌ただしくも充実した一日を過ごしました。午後の発表会では気持ちを切り替え、これまでの学びの成果を堂々と発表しました。

1番目の「はじめのことば」では、1年生の児童が落ち着いた声で開会のあいさつを行いました。小さな体でマイクの前に立つ姿に、保護者の表情も自然とほころび、会場全体が温かい空気に包まれました。

2番目は全校児童による合奏「スーパーカリフラジリスティックエキスピアドーシャス」「楽しいマーチ」。ピアノやリコーダー、マラカスを使い、学年ごとに異なるパートを担当しました。リズムをそろえるのに苦労しながらも、練習を重ねて音がひとつにまとまりました。本番では音を合わせる喜びを感じながら、笑顔で演奏する姿に成長が感じられました。



3番目は初挑戦の「カップス」。机の上のコップを打ち鳴らしてリズムを刻む演奏です。最初は音がバラバラでしたが、練習を重ねるうちに息がぴったりと合うようになっていました。本番では自然と手拍子が起こり、体育館全体が明るく弾むような雰囲気に包まれました。

4番目の合唱「世界がひとつになるまで」では、7人の声が重なり、やさしい音色が体育館いっぱいに響きました。小規模校ならではの一体感が感じられ、歌い終わると温かい拍手が送られました。



5番目は全校児童によるオペレッタ「白崎のトッコ石」。霧島市に伝わる伝説をもとにした劇で、登場人物は、神様（6年女子）、神の使い（3年男子）、村人（4年女子）、霧島山（4年男子・1年女子）、桜島山（3年女子・2年男子）。9月からの練習では、セリフや動きに苦戦しながらも、音楽担当の先生の根気強い指導のもとで少しずつ形になっていきました。衣装を着けて練習した10月ごろには表情が一段と引き締まり、本番では全員が自信をもって舞台に立ちました。6年女子の神様役が全体をまとめ、3年男子の神の使いは落ち着いた語り口で優しさを表現。霧島山役の4年男子と1年女子、桜島山役の3年女子と2年男子も息の合った演技を見せました。舞台の最後、平和が戻る場面では全員の歌声が響き渡り、多くの保護者が拍手を送りました。



最後は6年女子による英語でのスピーチ「おわりのことば」。たった一人での発表でしたが、堂々とした姿勢と落ち着いた声で感謝と決意を伝え、下級生の手本となったことだと思います。体育館後方の作品展示では、子どもたちの力作が並びました。1・2年生は生活科で作ったリースや工作、3・4年生は「ゼロハンティング」や「たまごミュージアム」などユニークなテーマの立体作品、6年生は書写や俳句、短歌の展示。「友達」「笑顔」「大切」と書いた書写や、「霜降の朝」「体を動かすワクワクな時」と詠んだ作品からは、子どもたちの思いや感性が伝わりました。発表の合間や休憩時には多くの保護者が展示を見て回り、「よく頑張ったね」と声をかけたり、写真を撮ったりする姿も見られました。穏やかな雰囲気の中で、子どもたちの努力が静かに伝わる時間となりました。



今回の発表会では、音楽や劇を通して「みんなでつくり上げる喜び」を味わうことができました。子どもたちは互いを認め合いながら自分の役割を果たし、成功への達成感を共有しました。一方で、これまで積み上げてきた教科学習や探究の成果を、より自然に発表の形へと結びつけることが今後の課題です。日常の学びの中に、行事の意義を位置付けていくことが、これからの小規模校のあり方として大切になると思われます。保護者や地域の皆様の温かいまなざしと拍手に支えられながら、子どもたちはまた一歩成長しました。これからも地域とともに歩み、学びと成長を重ねていく持松小学校でありたいと思います。



今回の発表会では、音楽や劇を通して「みんなでつくり上げる喜び」を味わうことができました。子どもたちは互いを認め合いながら自分の役割を果たし、成功への達成感を共有しました。一方で、これまで積み上げてきた教科学習や探究の成果を、より自然に発表の形へと結びつけることが今後の課題です。日常の学びの中に、行事の意義を位置付けていくことが、これからの小規模校のあり方として大切になると思われます。保護者や地域の皆様の温かいまなざしと拍手に支えられながら、子どもたちはまた一歩成長しました。これからも地域とともに歩み、学びと成長を重ねていく持松小学校でありたいと思います。

〈学習発表会アンケートより〉（15名）

1 日程について

- 運動会が終わった後で、季節的にも寒くもなく日程的にもちょうど良かった。
- 土曜授業の時だったら、土日休みの人も見れるではと思った。
- 季候も良く、良い日程だったと思う。
- 午後からだったので、ゆっくりと見れて良かった。
- 子どもたちも練習が大変だっただろう。見学にはちょうど良い時期だった。

2 内容について

- カップスの演奏を初めて見るのが出来て良かった。合唱も2部合唱が出来ていた。英語での挨拶も素晴らしかった。オペレッタも楽しめた。
- カップスなどもあり、珍しい内容で興味深く楽しい内容だった。合唱や合奏、オペレッタなど様々な内容があり、楽しかった。
- 去年とは違うプログラムでいろいろな人の表情が見れてよかった。「はじめのことば」はとても緊張していたのだと思う。
- 全員で成し遂げる内容となっており、とても温かいプログラムだった。
- 楽しいマーチで手拍子からピアノへ移る短い時間にスムーズにいかなくても頑張っていた。音と手品がマッチしたもので子どもたちも楽しそうに演奏していると思った。
- 合同で仲良く協力して練習してきたんだと感心して見る事ができた。
- 全種目、素晴らしかった。オペレッタ、合唱、合奏、カップス（初めて見た）

3 その他（自由記述）

- 運動会の後の短い期間でみんなよく頑張っていたと思う。
- 子どもたちが精一杯、歌や合奏、オペレッタなどに取り組んでいる姿を見て感動した。オペレッタも一人一人の子どもが大きな声で楽しそうに気持ちが伝わってきて感動した。
- みんなが主役でとても良かった。
- よくやったと思う。母親の方がドキドキして言えるかと不安だったが、やりきったのはすごいと思った。
- 毎年、その時に合わせた内容で発表会を開いてくださり、ありがたい。
- 長年、演技をされてきたオペレッタ。少人数でも楽しく大きな声でやればできるのだと思った。そして、背景の絵も素敵だった。「おわりの言葉」を英語で言っていて、年長さんだと感じた。これからの中学校生活が有意義なものになると思う。
- 全校一緒に頑張っていて楽しく合奏、合唱が良かった。きれいな歌声とハーモニーだった。
- 7人の子供たちがまるで大勢の児童がいるような堂々とした演技、行動、地元の神話のオペレッタなど、誉めても誉めても足りないくらいに頑張っていた。久しぶりの発表会に涙が出そうだった。

